

令和2年度

事業報告書

社会福祉法人きすき福祉会
特別養護老人ホームさくら苑
特別養護老人ホームさくら苑さくらんぼの家
短期入所施設特別養護老人ホームさくら苑
木次町デイサービスセンター
木次居宅介護支援事業所
小規模多機能型居宅介護事業所桜花

I. 経過

年月日	事業内容
令和2年5月27日	監事による令和元年度会計監査
6月8日	理事会（みなし決議） ・ 令和元年度事業報告及び決算の承認について ・ 給与規程等の一部改正について ・ 安全衛生方針の策定について ・ 定時評議員会の招集事項について ・ 人事異動について
6月4日	雲南地域介護サービス事業管理者連絡会役員会
6月16日	定時評議員会（みなし決議） ・ 令和元年度事業報告について ・ 令和元年度計算書類及び財産目録の承認について
7月9日	雲南地区福祉施設協議会
7月15日	夜間火災想定避難訓練
7月16日	雲南市社会福祉法人連絡会幹事会
7月28日	雲南市社会福祉法人連絡会総会（書面議決）
10月21日	土砂災害避難訓練
11月11日	雲南市長・雲南市議会議員選挙不在者投票
11月20日	昼間火災想定避難訓練
12月9日	第2回理事会（みなし決議） ・ 評議員選任・解任規程の一部改正について ・ 介護業務支援システムの選定・導入について ・ 令和2年度資金収支補正予算（案）について ・ 評議員会の招集事項について
12月15日	社会福祉法人監事研修（松江市）
12月16日	第2回評議員会（みなし決議） ・ 令和2年度資金収支補正予算の承認について
令和3年1月29日	雲南市長選挙不在者投票
3月1日	雲南市社会福祉法人連絡会幹事会
3月10日	第3回理事会 ・ 令和3年度事業計画及び資金収支予算（案）について ・ 令和2年度資金収支補正予算（案）について ・ 評議員選任・解任委員の選任について ・ 定款の変更について ・ 評議員会の招集事項について ・ 理事長の職務の執行状況について

年月日	事 業 内 容
3月17日	第3回評議員会 ・令和3年度事業計画及び予算の承認について ・令和2年度資金収支補正予算の承認について ・定款の変更について

II. 総括的事項

令和2年1月に中国・武漢で初めて確認された新型コロナウイルスによる感染症は、わずかな期間で世界各地に感染が広がり、日本国内においても緊急事態宣言の発出や東京オリンピックの延期など社会生活や経済にかつてない深刻な影響を及ぼしながら今日に至っています。

こうしたコロナ禍の中でスタートした令和2年度は、社会生活の様々な分野で我慢と変革が求められ、まさにコロナに翻弄された年でしたが、きずき福祉会においてもマスク着用や手指消毒、健康管理などの感染予防策の徹底はもちろんのこと、季節行事の中止や面会制限、外出自粛など業務に限らず私生活でも制約が強いられ、施設利用者様をはじめ職員にとっても大変窮屈で心労の絶えない1年となりました。

幸いこうした対策が功を奏し、新型コロナはもとより例年流行が懸念されるインフルエンザや食中毒などの感染症から利用者様の健康を守ることができたのは何よりのことであり、利用者様のご理解ご協力と職員の不断の努力が実を結んだものといえます。

一方で、感染予防のための消毒液、マスクなどの衛生用品の備蓄や面会スペース、備蓄倉庫、休憩室の整備など新たな経費がかさみ、国からの一定の支援はあったものの経営収支を悪化させた要因の一つとなっています。

また、令和元年度に職員不足により短期入所施設の利用定員を14人から10人に減らしたことや、小規模多機能型居宅介護事業所桜花の利用者が落ち込んだことが影響し、介護保険事業収益が大幅に減少したため法人全体としては経常増減差額を赤字計上せざるを得ない厳しい決算状況となりました。

しかしながら、こうした中にあっても介護職員増員のための募集・採用活動や令和3年度からの介護業務支援システムの本格稼働に向けたシステム・機器の導入整備に取り組むとともに、施設・設備の整備のための資金の積み立てを行うなど、将来を見据えた積極的な投資も行ったところです。

このほか、サービス提供の面でも新型コロナにより中止となった桜まつりや納涼祭、長寿祭などのイベントに代わり職員みずから創意工夫を凝らした新たな行事を企画・実施するなど、利用者様に寄り添い利用者様に喜ばれるサービスを行うとともに、「看取りケア」「認知症ケア」「口腔ケア」「医療的ケア」などの介護サービスの充実に努め、利用者様に「安全」「安心」「満足」していただける質の高いサービスを実践しました。

また、社会福祉法人による「地域における公益的な取組」の一つとして雲南市社会福祉法人連絡会による「身近でなんでも相談窓口ネットワーク事業」や「うんなん福祉・安全サポーター活動」に参画し、地域貢献の拡充にも取り組みました。

Ⅲ. 法人本部

1. 理事会・評議員会・監査会

- (1) 今期は、理事会3回、評議員会3回を開催し定款の変更、決算・事業報告、予算・事業計画の承認、各種規程の改正等を行いました。このうち新型コロナウイルス感染防止のため理事会2回、評議員会2回をみなし決議で行いました。
- (2) 監査会は、5月27日に新型コロナウイルス感染防止のため持ち回りで開催し、令和元年度決算の状況や会計処理、財産管理の執行状況並びに業務運営について監査を受けました。

2. 経営理念の徹底及び経営の透明性の確保

- (1) 職員に対して、法人の基本理念や事業計画、予算等について、各種会議、研修等を通じて周知を図りました。
- (2) 社会福祉法人としての経営の透明性を確保し、公正で開かれた事業運営を担保するため、定款、中期経営計画、事業計画及び事業報告、財務諸表等について、ホームページや広報誌「さくら苑だより」等を通じて公開しました。
- (3) ホームページを活用し施設の活動状況をPRするとともに、各施設のサービス提供体制や内容等について「サービス情報の公表制度」を活用し公表しました。

3. サービス管理

- (1) 利用者のニーズをサービスに反映するため、引き続き「お客様の声ノート」の活用等を図ったほか、地域密着型サービス施設のさくらんぼの家と桜花については、運営推進会議を開催し利用者や地域関係者等の評価を反映させる取り組みを推進しました。
- (2) リスク管理委員会を中心にリスクマネジメントとして事故報告書、ヒヤリハット報告書等を作成し、事故の数量的把握や事故原因の分析を行うことにより、問題点と改善策を職員が共有し事故の再発防止を図りました。
- (3) 新型コロナウイルスをはじめ感染症対策や衛生管理については、手洗いや手指消毒など標準予防策の徹底や、防護用品の装着訓練など感染症の発生を想定した研修を行うとともに、感染対応に必要な備品等の調達・確保に努めました。
- (4) 身体拘束委員会を定期的で開催し、職員研修会等を通じて人権擁護の姿勢を常に保ち、できる限り身体拘束をしないよう職員一丸となって廃止に向けた取り組みを進めた結果、今年度も身体拘束につながるようなケースは発生しませんでした。
- (5) 虐待防止や権利擁護など人権意識の高い職員の育成に向けた研修を実施するとともに、虐待防止チェックリスト等を実践することによって虐待防止にかかる自己覚知と意識の向上を図りました。
- (6) 苦情等については、利用者の声として真摯に受けとめ、職員会議、苦情解決委員会、第三者委員等によりきめ細やかな対応と今後の改善策を検討し、問題の解決やサービスの見直しに繋げました。
- (7) サービスの質的向上に向けた取り組み

- ① 認知症ケアの充実に向けて認知症介護実践者研修の受講を申し込みましたが、新型コロナウイルスによる研修中止等のため今年度は受講することができませんでした。
 - ② 利用ニーズの高まる医療的ケアに対応して、介護職員によるたんの吸引等の実施体制の充実のため、5名がさくら苑での実地研修を行い特定行為従事者の認定登録を受けました。
 - ③ 看取りケアについては、本人や家族の想いを受け止めながら嘱託医師の指示のもとで安らかな最期を迎えることができるよう取り組み、今年度は6名の方の看取りを施設で行いました。
- (8) 新型コロナウイルス感染防止のため中止したイベントや季節行事に代わり、職員が創意工夫しながら納涼祭やお楽しみ会など施設内だけの行事を企画運営しました。
- (9) 介護業務等の効率化・省力化、介護職員の事務的負担の軽減を図るため、介護業務支援システム「福祉見聞録」の令和3年度本格稼働に向けてソフト・機器の導入やシステムの調整、操作研修等を行いました。

4. 人事管理

- (1) これまで「介護職員処遇改善加算」を活用して一時金で支給していた介護職員への処遇改善手当を各月に支給するよう変更するとともに、「介護職員等特定処遇改善加算」を活用した特定処遇改善手当を一時金として支給するなど職員の給与面での待遇改善に努めました。
- (2) 国の働き方改革による同一労働同一賃金の施行（2021年4月）にあわせて、令和2年7月から常勤嘱託職員及び臨時職員の通勤手当の額を正規職員と同額にするるとともに、非常勤職員にも新たに通勤手当を正規職員と同額を支給するように改めました。また、正規職員の住居手当のうち家賃を支払っている職員に対する支給額の限度額を5,000円から20,000円に引き上げました。
- (3) 有給休暇取得の義務化に対応し、対象となる職員全員が5日以上の有給休暇を取得しました。
- (4) 引き続きウェブによる人事考課（E-WORK）システムを活用し、自己評価と上司評価に加えて自己目標の管理プログラムを実施することにより、職員のキャリアアップやモチベーションアップ、人材育成につながるよう取り組みました。
- (5) 新規学卒者の採用については、ハローワーク等を通じて「受験案内」を配布し募集活動を行いましたが、応募が無く採用試験を実施することができませんでした。また、介護職員、調理員、看護師の募集については、ハローワーク等を通して随時求人を行い欠員を補充しました。
- (6) 産業医の協力を得て、定期健康診断を全職員対象に年1回（夜間勤務者等は年2回）実施するとともに、インフルエンザ予防接種や出勤時における健康チェックを行うなど職員の健康管理及び職場の安全衛生管理に努めました。
- (7) ストレスチェックは労働安全衛生委員会を中心に実施し、希望する職員（1名）には産業医によるカウンセリングを行いました。
- (8) 職場風土改善委員会や職員互助会で企画した交流会などの事業は、新型コロナウイルスのため開催できませんでしたが、それに代わる「あみだくじ大会」や「塗り絵コンクール」などを実施し職員の親睦交流を図りました。また、「言わんとわからん箱（意見箱）」の設置や

広報紙「チェンジ」の発行等を通じて職員の意見交換の場を提供するとともに、職員互助会に対する助成や各種共済制度の活用により職員の福利厚生の実現に努めました。

(9) 職員の「法人への帰属意識の高揚」や「連帯感・一体感の助長」するため、法人のロゴをプリントしたユニフォームを制作しました。

(10) サービスの向上を担う人材の育成

① 職員一人ひとりの意識改革と能力・資質の向上を図るため、研修計画に基づき各部門において研修を実施し、多様化する福祉ニーズに対応できる人材の育成に取り組みました。

なお、今年度は外部研修について新型コロナウイルスの影響により開催中止やオンラインによるウェブ研修への変更が相次ぎ、予定どおりに受講できないケースが多くありました。

② 新人職員については、新人育成ガイドラインを基本にOJTを行い、新人職員が抱える仕事内容や対人関係に関する不安等を気軽に相談できるきめ細やかな支援体制により早期の職場適応と自律的成長を促すことに努めました。

③ 認知症ケア、個人情報保護、倫理及び法令順守、感染症、安全・衛生管理、虐待防止の研修も職員会議時に実施しました。

④ 2年度において介護職員1名が介護支援専門員の資格を取得し、同じく3名が介護福祉士資格を取得しました。

5. 財務管理

(1) 経理規程や税理士事務所によるアドバイスをもとに適正かつ正確な会計処理を行い、監事監査や指導を踏まえて所要の改善を図るなど、社会福祉法人としての会計処理の信頼性、公正性の確保に努めました。

(2) 稼働率の向上や業務の効率化など支出削減を基本として、適切な予算執行と収益性の確保を図りました。

6. 法令等の遵守及び危機管理体制の強化

(1) 関係機関による講習会や研修に参加し、コンプライアンスの強化に努めました。

(2) 設備、器具等の定期的な点検及び適正な使用方法の徹底を図るとともに、入浴設備のある施設においては感染症対策として国や保健所の指針及び通知に基づくマニュアルを周知徹底しました。

(3) 火災や風水害に備え、消防法に基づく自衛消防組織をはじめとした災害緊急体制を整備し火災及び災害避難訓練等を行うとともに、設備器具等の定期的な点検や適切な使用方法の徹底を図りました。(火災避難訓練2回、土砂災害避難訓練1回)

(4) 雲南警察署の協力を得て交通安全講習を開催し、交通ルールやマナーの徹底を図りました。

7. 経営状況

(1) 法人全体

事業活動収入については、ショートステイや小規模多機能型居宅介護事業所の利用者の減少により総額で4億6,788万円と前年度から1,400万円余りの減となりました。

一方事業活動支出は、欠員の補充に伴う職員数の増や処遇改善を行った影響により人件費が大幅に増えたため、総額で前年度に比べ2,581万円増の4億6,663万円となりました。

このほか、新型コロナや災害時に対応するため備蓄保管庫や面会室、休憩室を整備したほか、施設・設備整備積立金の積立支出(2,500万円)を行ったことにより、当期の資金収支差額は2,975万円の赤字計上となり、当期末支払資金残高は2億8,874万円(前年度3億1,871万円)となりました。

(2) 特別養護老人ホームさくら苑及びさくらんぼの家

従来型特養さくら苑及びさくらんぼの家計70床の平均利用者数は前年度から微増の67.45人(前年度67.3人)で、介護保険事業収入は3億0,620万円(前年度3億0,308万円)と前年度から312万円の増収となりました。

施設別の内訳は、利用者数については従来型さくら苑(50床)が48.13人、ユニット型のさくらんぼの家(20床)が19.32人、介護保険事業収入ではさくら苑が2億0,444万円、さくらんぼの家が1億0,176万円となっています。

2年度末現在の入所者数は男性22人、女性47人で平均年齢は89.65歳、入所待機者は女性139人(前年度166人)、男性63人(同67人)で合計202人(同233人)となっています。

令和2年度中の退所者は、12人(死亡による10人を含む。)でした。

なお、新規入所については、定期的に入所検討委員会を開催し、透明性、公平性を確保しながら緊急性の高い方の入所を優先しました。

(3) 短期入所施設特別養護老人ホームさくら苑(短期入所生活介護事業)

短期入所生活介護事業は、令和元年12月から利用定員14床を10床に変更したことにより、年間の延利用者数が3,202人と前年度の3,810人に比べて608人減少し、介護保険事業収入も3,444万円(前年度4,032万円)と588万円の減収となりました。

(4) 木次町デイサービスセンター(通所介護事業)

木次町デイサービスでは利用延人数が5,949日(前年度6,697人)、1日の平均利用者が19.3人(前年度21.7人)と前年度に比べ2.4人の減となり、介護保険事業収入も5,912万円(前年度6,485万円)と573万円の減収となりました。

(5) 木次居宅介護支援事業所(居宅介護支援事業)

介護保険事業収入は1,883万円(前年度1,778万円)で105万円増加し、月平均利用者は105人(前年度104人)でした。

(6) 小規模多機能型居宅介護事業所桜花

利用延日数は5,772日(前年度6,662日)、日平均利用者は15.81人(前年度18.20人)と利用が大幅に減少し、介護保険事業収入も4,770万円(前年約5,405万円)と前年度から635万円減少しました。

IV. 施設別事業報告

令和2年度特別養護老人ホームさくら苑事業報告 (さくら苑・さくらんぼの家共通)

総括

令和2年度の総括として、利用者様に喜ばれる施設として、質の高いケア(看護)の実践できるように、お客様の声ノートや意見交流会での利用者様の声を取りあげ、ケアに反映すべく会議などで情報共有した。また、DVDなどの教材を利用して、自分たちのケアを振り返り、そのことについて職員同士での討議を行って接遇の向上に努め、日頃の業務に活かせるようにした。

利用平均人数については、入院や退所の影響でさくら苑では昨年実績より少なかったが、さくらんぼの家は体調などの面で悪化する方などが少なく、昨年実績より多かった。日頃から利用者様の体調管理の重要性を改めて感じた。

コロナ禍において、いろいろな活動が制限されるなか、Withコロナの時代にあった施設運営の在り方を模索する必要がある、利用者様の生活充実のための方向性を見出していきたい。

事業実績・成果

1. 利用者様に喜ばれる施設として質の高いサービスの実践

計画	個別ケアを推進し、利用者様の楽しみなどの把握とその支援	実績・成果	意見交流会を通じて、利用者様からのご意見を基にグループ会議などで小規模レクの開催など話し合い、実施できた。
	接遇の向上や介護技術の向上		福祉用具委員会を立ち上げ検討したり、グループ会議では、不適切ケアについてグループ討議で意見を出し合ったりと自分たちの普段の介護について振り返りを行った。一度きりで終わるのではなく、継続して接遇向上に努める。

2. 職員が働きたいと思える魅力ある職場(チーム)づくり

計画	職員同士が、親密にコミュニケーションが図れる職場環境を整える。	実績・成果	休憩室を増設し、交流できる場所をつくった。風土改善委員会で企画した行事にてコミュニケーションが促進されるような仕掛けづくりをした。
	職員のやる気を大切にし、指示待ちではなく自ら考え動けるチームづくり		今年度は十分に行えなかったが、個人面談を実施して、上司が部下の考えなどを聞き取り、日頃の業務や人事考課の目標管理に反映させるようにしていく。 また、上司は部下との面談を通して自身も成長し、組織人としての能力向上を目指す。

3. 心が通ったケア(看護)を実践できる人材の育成

計画	職員の目標管理をサポートし、なりたい自分像を鮮明にして、福祉会の将来を担う職員を育成する。	実績・成果	人事考課システム活用により、目標管理を行い、育成につながるようにした。また、コロナ禍において外部研修が少なかったが、今後も常識を持ち、主体性を持って行動できる職員育成を続けていく。
	研修受講を促進し、資格取得を目指しながら業務できるように支援する。		研修については、コロナ禍において外部研修などもすくなかったが、オンラインを通じての研修等に参加し、能力向上・キャリアアップを目指した。 介護支援専門員1名、介護福祉士3名の合格実績があった。

4. さくら苑

利用者様にとって楽しみなどがなく、十分に楽しんでいただけていない状況を改善する。

計画	レク用品の購入	実績・成果	新しい物は購入せず、ある物を利用しレクが行えた。 カラオケ機器導入誕生日などに使用楽しまれる。 今後は各グループでレク用品の検討し購入していく。
	午後の入浴時間帯での小規模レク開催		その時々で利用者に合わせて小規模レクが行え、利用者様には喜んで頂けた。現在はグループレクやクラブ活動も実施でき楽しみの場が増えている。

5. さくらんぼの家

研修の受講や普段から職場内のコミュニケーションを活性化して、能力向上や職員間のつながりを強化することで、ケアの偏りをなくし業務の連携をスムーズにする。

計画	日々変更する内容はユニットノートを活用。2ヶ月に1度行うユニット会議にて取りまとめる。	実績・成果	変更・検討する内容はユニットノートやユニット会議を活用し情報共有することでサービスの統一化を図れた。
	キャリアレーションの活用。職員行事への参加		職員・利用者に関わらず表情やしぐさを読み取ることで対象者の思いに気づけるよう努力した。 コロナ禍にある為職員行事は未開催。

24hシートの活用。 社内外研修への参加。	活用できる状態には至っていないので次年度も引き続き24hシートの作成を行う。 社外研修は不参加。
--------------------------	---

6. 栄養調理

食べる楽しみを持っていただき施設での生活に彩を与える食事となるよう工夫する。

計画	厨房職員が企画する「お楽しみの日」を年間計画に組み入れる。	実績・成果	5回計画し、実行できた。コロナウイルスの感染予防のため、調理員が利用者様の前でデモンストレーションすることがかなわない日もあったが、料理やお菓子を喜んでいただけました。
	歯科医師、歯科衛生士の指導の下経口維持計画を策定し確実にサービスに反映していく。		毎月、歯科医師に助言をいただきながら、12～14名の方の経口維持計画について、ミールラウンドや会議を行い、サービスに繋げることができた。

7. 看護

利用者様の状態観察を行い、異常の早期発見に努め、重度化や入院となる状況を少なくすることで利用者様の生活を守る。

計画	担当医との連携を密に行い、適切な処置に繋げる。	実績・成果	利用者様の状態観察を行い、体調変化時には速やかに報告し往診して頂く事ができた。また受診が必要な場合には紹介状を書いて頂き適切な受診及び入院等の処置に繋げる事ができた。
	グループ会議などで、職員に対しての看護実践研修の継続。		コロナ禍において県内や市内での感染者が増加している状況もありグループ会議が急遽中止になる事があり看護実践研修が行えなかった。今後も状況を見ながら継続が必要だと思う。
	苑内感染症研修の継続実施。		外部講師を招いての研修はできなかったが苑内での感染症研修で新型コロナウイルス感染症に対するビデオ研修とガウンテクニックの実践を行う事ができた。職員全員が参加することはできなかったので今後も継続して感染症研修を行い、正しい知識を持って感染症予防対策ができるようにしていきたいと思う。

8. 介護支援部門

利用者様、介護者双方にとってより良い移乗技術を定着させ、介護の質を高める。

計画	福祉用具委員会の開催と対象利用者様の選定、既存の福祉機器の活用実践及びコアメンバーの教育(外部研修参加)機材の選考と準備 苑内研修の継続実施(講義・実技研修)	実績・成果	実績：毎月、福祉用具委員会を開催し、対象利用者を選定した。検討する中で介護リフトより安価で、導入がよりしやすいスライドボード、スライディングシートの勉強を行った。またそのマニュアル作成、移乗技術の勉強会を平均して2か月に1回の頻度で委員を中心に行った。外部研修には感染症対策として参加はできなかった。また名称を移乗技術向上委員会に変更し、委員会の目的の明確化を図った。 成果：福祉用具委員にはスライディングボード、シートの使い方は習得が進んでいるが、福祉用具の活用にかかるという意識が普及しづらさの原因になっている。また一部の利用者からもボード、シートの活用を拒否された。技能の普及と業務の価値観を見直す教育が必要と思う。
----	--	-------	--

9. 相談・管理部門

効率的な施設運営を行うため、退所や入院により空床となる期間をできる限り少なくする。

計画	さくら苑の平均利用者数49人(稼働率98%)を目指す。	実績・成果	今年度実績は48.13人(昨年度は48.14人)で、稼働率は96.27%。 平均利用者数は伸び悩んだ。春から夏にかけて入院される方があってその影響がでた。
	さくらんぼの家の平均利用者数19.5人(稼働率98%)を目指す。		今年度実績は19.32人(昨年度は19.16人)で、稼働率は96.60%。 3年間で比較すると平均介護度も利用者数も伸びがありました。

10. 病院受診

① 外来受診

(さくら苑)

受診科	内科	外科	整形	皮膚科	眼科	耳鼻科	泌尿器	救外	神内	精神
人数	22	1	30	36	4	3	15	6	1	0

(さくらんぼ)

受診科	内科	外科	整形	皮膚科	眼科	耳鼻科	泌尿器	救外	神内	歯科
人数	8	1	10	6	4	0	9	7	8	0

② 入院

(さくら苑)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	1	2	1	1	2	0	0	2	0	2	1	2

(さくらんぼの家)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	0	1	0	0	4	1	1	2	0	0	1	0

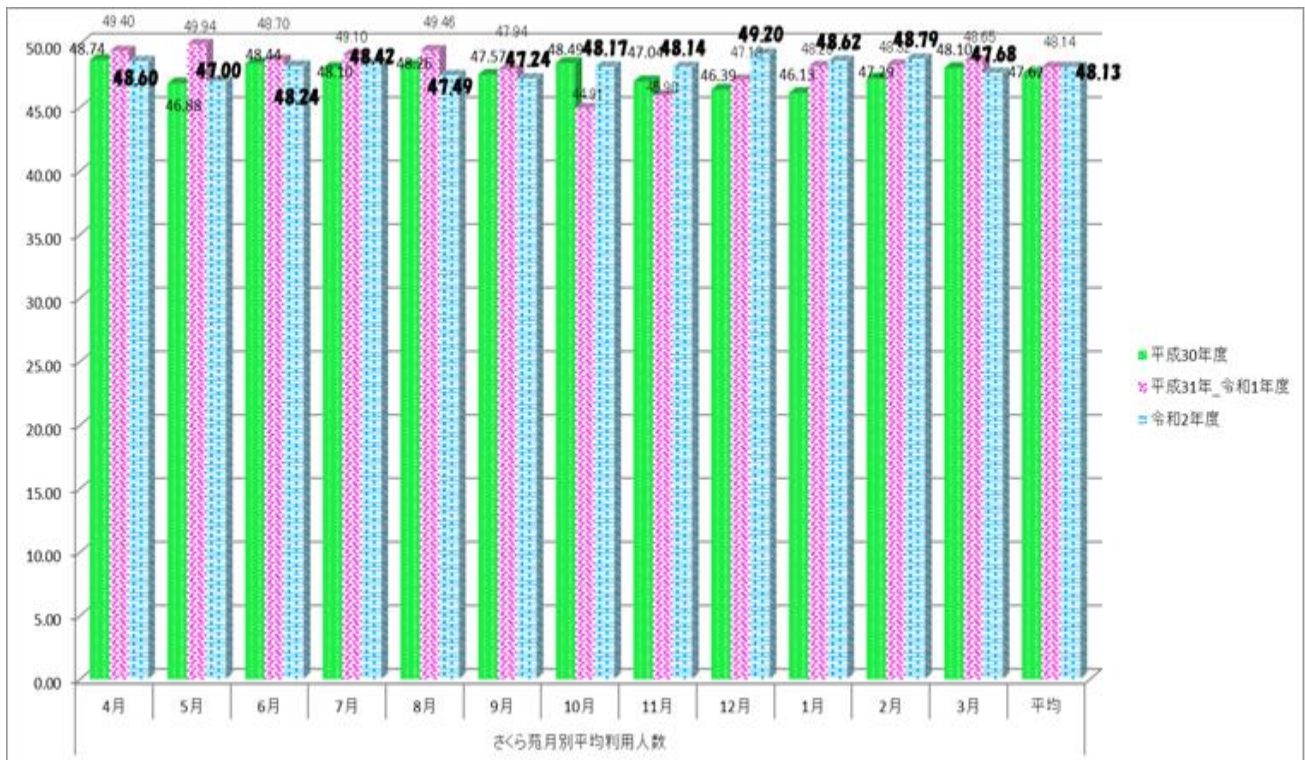
亡くなられた方	昨年度	11人	退所された方	昨年度	4人
	今年度	10人		今年度	2人

亡くなられた場所 内訳	病院	4人
	さくら苑	5人
	さくらんぼの家	1人
退所された方 内訳	さくら苑	1人
	さくらんぼの家	1人

* 利用実績

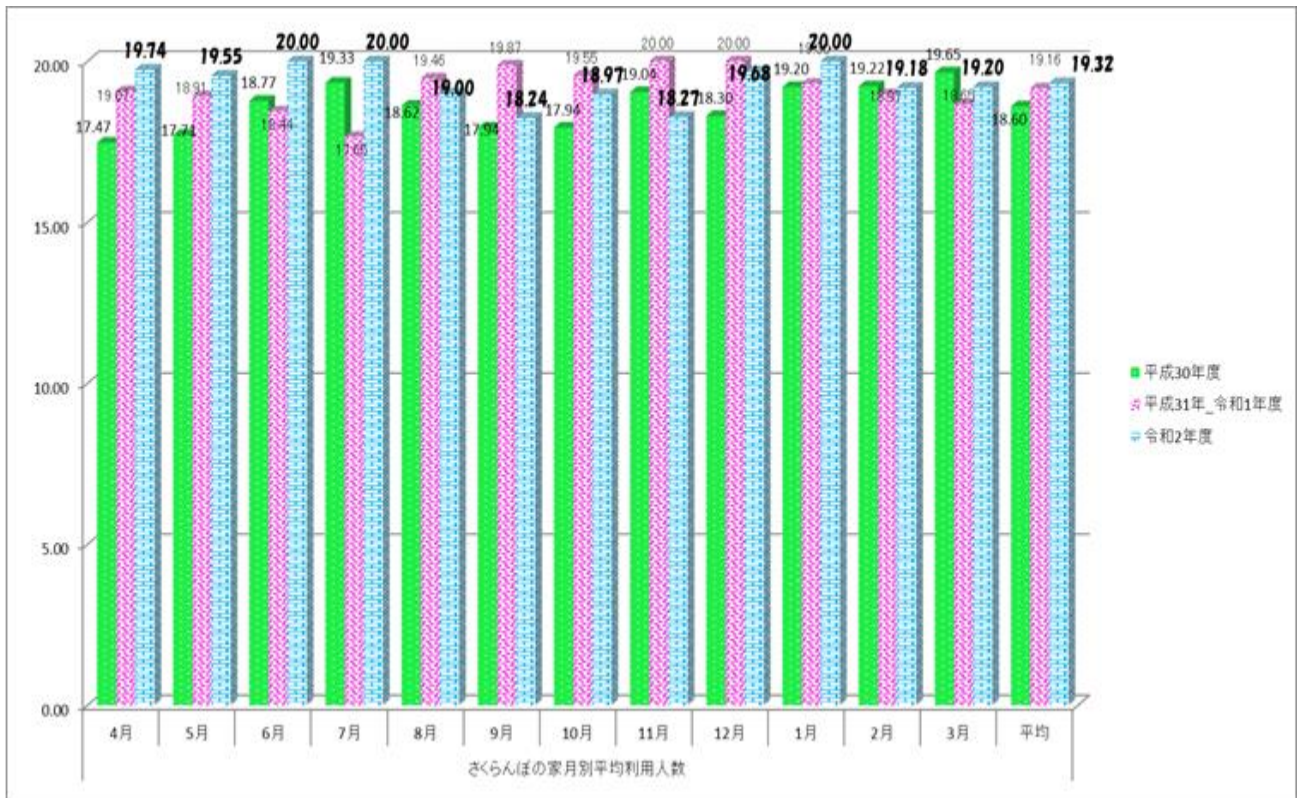
さくら苑月別平均利用人数														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
平成30年度	48.74	46.88	48.44	48.10	48.26	47.57	48.49	47.04	46.39	46.13	47.29	48.10	47.62	95.24%
平成31年_令和1年度	49.40	49.94	48.70	49.10	49.46	47.94	44.91	45.90	47.13	48.20	48.32	48.65	48.14	96.28%
令和2年度	48.60	47.00	48.24	48.42	47.49	47.24	48.17	48.14	49.20	48.62	48.79	47.68	48.13	96.27%

さくら苑月別平均介護度														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
平成30年度	4.02	3.82	3.91	3.83	3.87	3.77	3.89	3.75	3.70	3.64	3.74	3.81	3.812	
平成31年_令和1年度	3.92	3.97	3.91	3.92	4.01	3.86	3.64	3.66	3.79	3.85	3.85	3.86	3.853	
令和2年度	3.84	3.7	3.78	3.8	3.71	3.68	3.78	3.81	3.88	3.83	3.84	3.73	3.782	



さくらんぼの家月別平均利用人数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成30年度	17.47	17.71	18.77	19.33	18.62	17.94	17.94	19.04	18.30	19.20	19.22	19.65	18.60
平成31年_令和1年度	19.07	18.91	18.44	17.65	19.46	19.87	19.55	20.00	20.00	19.30	18.97	18.65	19.16
令和2年度	19.74	19.55	20.00	20.00	19.00	18.24	18.97	18.27	19.68	20.00	19.18	19.20	19.32

さくらんぼの家月別平均介護度													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成30年度	3.44	3.51	3.77	4.00	3.90	3.73	3.64	3.88	3.64	3.89	3.86	3.98	3.77
平成31年_令和1年度	3.86	3.79	3.63	3.48	3.96	4.07	4.01	4.10	4.20	4.03	3.94	3.91	3.92
令和2年度	4.11	4.06	4.20	4.20	4.02	3.84	3.98	3.79	4.04	4.10	3.90	3.84	4.01



令和2年度短期入所生活介護事業報告

1. 総括

令和2年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症が流行し、年間を通して事業等が制限され中止された一年でした。短期入所は送迎時の検温実施、利用者様のマスク着用、手指消毒の徹底し感染予防を行いました。

一昨年12月から短期入所施設の定数を10名に変更し対応しましたが、一年を通じて利用者様の入院が多く、その結果、年間利用者数で3,202名(前年3,810名)前年対比84.0%、一日平均8.8名(前年10.4名)で前年対比84.6%、実利用者数65名(前年82名)前年対比79.3%で新規利用者数が22名でした。

また、『一人ひとりに寄り添い、敬い、尊重し、心地よい空間と安心をお届けする』をスローガンに掲げ、利用者様・ご家族様の思いを大切にし、ご利用時や在宅でも安心した生活と、心にゆとりのある生活で笑顔のある日々を過ごしていただけるよう支援しました。コロナ禍の中で外出支援は、4月のお花見ドライブ(7名参加)しか開催できませんでした。

2. 事業の実績

(1) なじみの関係

コロナ禍の中で外部の方の訪問を制限してできませんでした。

(2) 稼働率安定

稼働率88%(一日平均利用者数8.8人)と目標を下回りました。居宅介護支援事業所に空床情報を提供し、柔軟に対応しました。

(3) 外出活動

花見ドライブを2回に分けて行い、車内からの花見でしたが大変喜んでいただきました。買い物ツアーやブドウ狩りはコロナ禍で開催することはできませんでした。

(4) 短期入所生活介護計画及び指定介護予防短期入所生活介護計画の作成

サービスを提供する場合は、短期入所生活介護計画を作成し、利用者の心身の状態が低下しないよう適切に支援することができました。

(5) 身体拘束の禁止

生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束(スピーチロック)も含むその他、行動を制限する行為を行わないこととし、利用者が人間らしく尊厳のある生活を送れるように努めました。

(6) 健康管理

健康管理については、看護職員等により健康状態の観察を行い、異常時は速やかに対応しました。

(7) レクリエーション

毎日、塗り絵や歌、クイズ、カードゲーム等をして、少しの時間でしたが大声を出しながら、楽しく行いました。また、2ヶ月に1回ショート独自のレクリエーションを行い、利用者同士のコミュニケーションを図るよう努めました。

(8) ご家族様との信頼関係を構築

連絡ノートを活用しご家族様のニーズを把握して満足度の高いケアを提供するように努めました。

3. 利用状況

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	1日平均利用者数 R2年度		8.8人	8.2人	7.1人	8.4人	8.8人	8.8人	9.0人	9.8人	8.3人	8.4人	10.2人	9.5人
1日平均利用者数 R1年度		13.1人	13.3人	13.6人	12.3人	11.5人	9.3人	8.9人	8.1人	7.8人	9.1人	8.4人	8.9人	10.4人
目 標		10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人	10人
介護報酬日数(R1)		392人	412人	409人	382人	357人	278人	277人	243人	243人	281人	260人	276人	3810人
介護報酬日数(R2)		265人	253人	214人	259人	274人	265人	280人	293人	257人	261人	286人	295人	3202人
前年対比(%)		67.60%	61.40%	52.30%	67.80%	76.60%	97.40%	101.10%	120.60%	105.80%	92.30%	110.00%	106.90%	84.00%
前月対比(%)		99.20%	84.60%	84.60%	121.00%	105.60%	96.70%	105.70%	104.60%	87.70%	101.60%	109.60%	103.10%	

【介護度別利用状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	前年度
要支援 1	7(2)	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	9(2)	6(1)	6(1)	6(1)	6(1)	15(1)	76(2)
要支援 2	28(5)	28(4)	14(2)	16(2)	24(4)	13(2)	13(2)	14(2)	12(3)	17(3)	4(1)	13(2)	78(4)	196(5)
要介護 5	61(5)	71(4)	83(5)	74(5)	60(4)	32(3)	34(3)	31(3)	20(2)	25(2)	29(2)	20(2)	186(3)	540(4)
要介護 4	58(7)	57(6)	54(8)	37(6)	37(7)	37(6)	34(6)	31(5)	42(6)	42(6)	48(8)	42(7)	395(10)	519(14)
要介護 3	96(17)	98(14)	88(16)	99(18)	81(12)	62(11)	71(15)	48(12)	49(11)	56(9)	39(7)	41(7)	693(17)	828(19)
要介護 2	59(10)	66(9)	71(11)	48(8)	59(9)	46(9)	40(8)	53(8)	80(12)	96(12)	87(11)	102(13)	1234(18)	807(24)
要介護 1	83(11)	86(11)	97(11)	102(11)	90(11)	82(10)	79(10)	57(8)	34(6)	39(5)	47(7)	52(6)	601(12)	848(14)
計	392(57)	412(49)	409(54)	382(51)	357(48)	278(42)	277(45)	243(40)	243(41)	281(38)	260(37)	276(38)	3202(65)	3810(82)

令和2年度木次町デイサービスセンター事業報告

総 括

ご利用者様の身体的・精神的な健康の保持と状態変化への適切な対応を実践する事ができました。レクや季節の行事などに参加された利用者様が、非常に楽しんでいる様子を多く見る事ができて印象的でした。レクや行事だけでなく、適切な介護技術を以て、快適な入浴・排泄・食事をしていただけるように職員一同心掛けました。

これからも関わりの中で生き甲斐を持っていただける様、改善できる所は改善しながら今後も質の高いサービスを提供し、安心・安全に利用していただけるように努めます。

1. 事業目的について

通所介護事業の目的である、「その利用者様の人格・意思を尊重し、ご利用者様の立場に立った適正なサービスを提供し、可能な限り家庭においてその有する能力に応じ自立した生活を営むことを図ると共に、ご利用者様ご家族様の身体的・精神的負担及び介護負担の軽減を図る。」ことについて、それぞれの専門職が協働の姿勢で関わり、チームケアを行う事ができました。また、リハビリの最中に本人様の意思や訴えを重視し、無理なく”楽しみから進んでできるリハビリ”を目指し、できるという達成感を味わっていただけるよう実施しました。

2. 事業実績について

(1) 自立支援・個別ケアについて

利用者様や家族様の人権尊重の考えを柱に、計画書の作成とサービス提供を行い、従来の生活の継続とその人らしい生活を営んでいただけるように支援しました。

普段の会話や意見交流会などのご意見または家族様から家庭での状態などを聴取し、それをプログラムに取り入れ改善して個別ケアに繋げることができました。

(2) 状況把握と意向を踏まえた同意について

サービス提供前に、アセスメントをしっかりととり、利用者様と家族様の状態や意向を把握し、同意を得たうえでサービス提供を行いました。

(3) 情報の共有化について

ケース検討や介護技術研修などを実施し、ご利用者様の状態やケアの方法など情報の共有や知識、技術の向上を行いました。個人ノートを活用し他事業所との情報共有も行い円滑に対応できました。

(4) 運営体質の改善について

お客様の声やご意見をいただくとその日のミーティングで話し合い、改善策を検討しました。また、すぐに対応できない懸案についても、鋭意改善に向け努力しました。短期入所施設との連携を取りお客様のためのサービス提供に努めました。

(5) 継続的サービスの実施について

居宅介護支援事業者や地域包括支援センターと随時または継続的にサービス評価や情報提供を行い、利用者様や援助の増を図ることができました。

(6) 評価・見直し・提案について

ミーティングやケース検討などで、利用者様の状態把握をし、定期的に通所介護計画の評価・見直しを行い、関係事業所に対し報告書や電話連絡や訪問によって提案を行いました。

3. 感染症対策について

新型コロナウイルス感染症が広がる中、以下の対応を実施し感染予防に努めました。

- ・送迎時、車内に乗り込む前の検温の実施、送迎後の車内のアルコール消毒
- ・各テーブルをアクリル板で仕切る事により飛沫感染を防ぐ
- ・ボランティアなどには極力お願いをせず、職員でできるレク・行事の実施
- ・新型コロナ等、各感染症の動向把握と予防対策のマネジメントの実施

4. サービス提供について

(1) 連絡体制の確立と関係性の強化

ご利用者様と関わる事業所間で個人ノート等を活用し連絡体制や関係性・信頼性の強化を図りました。このことにより、チームケアの実践と基盤づくりができました。

(2) 利用実績について

①令和2年度の新規契約件数は21件/年間でした。

入院や本入所などで実績を思うように伸ばす事ができませんでしたが、定期的に新規利用者を受け入れました。

上半期利用状況	合計	R02.4	R02.5	R02.6	R02.7	R02.8	R02.9
稼働日数	308	26	26	26	27	26	26
全体(実人数)	—	65	65	63	63	64	67
全体(延べ人数)	5,949	512	497	496	515	513	493
平均利用者数	19.3	19.7	19.1	19.1	19.1	19.7	19.0
月初登録者数	858	73	74	72	68	69	70
開始利用者数	22	2	3	3	1	1	2
終了利用者数	22	1	5	6	0	1	1
月末登録者数	858	74	72	68	69	70	70
下半期利用状況	合計	R02.10	R02.11	R02.12	R03.1	R03.2	R03.3
稼働日数		27	25	25	23	24	27
全体(実人数)		67	69	68	67	67	70
全体(延べ人数)		526	521	510	375	444	547
平均利用者数		19.5	20.8	20.4	16.3	18.5	20.3
月初登録者数		70	70	71	72	74	75
開始利用者数		1	1	1	2	5	0
終了利用者数		1	0	0	0	4	3
月末登録者数		70	71	72	74	75	73

5. 身体拘束廃止に向けた取り組み

○苑内研修等で全員が共通の理解を持つことができました。

令和2年度、身体拘束件数 0件

6. 要望・クレーム・トラブルへの対応

①外部から受け付けたクレームは「クレーム解決規定」により「クレーム受付書」や「お客様声ノート」に記載し、その対応方法について全職員が意見を出し合い協議し、クレーム内容については真摯に受け止め改善しました。

②送迎時、家族とのコミュニケーションを図り信頼関係を築き、話し合える関係作りに努めました。

③日々の利用者様からのどんな小さな意見・要望・クレームを聞き逃さないよう心掛け、必要時にミーティングにおいてそれぞれに聴取した意見や気づいた点を話し合い、改善が必要な場合は協議し適切かつ迅速に対応するとともに、可能な限り利用者様の意見を反映できるように努めました。

7. 地域・家族との交流・連携、年間行事について

地域との交流として、ボランティアにお越しいただき、歌や踊り、盆踊り等行っていただきました。また、4月には花見ドライブ、6月には買い物ツアー、11月には紅葉ドライブなどを実施し、楽しんでいただきました。

8. 職員の技術・能力向上への取り組み

○1対人援助技術の向上のため、法人内の研修に参加し技術力向上に努めました。

○職場内研修を実施し、職員の資質向上とサービスの質の向上に努めました。また、家族からの情報や個人の状態の変化についてミーティング等で話し合いその後ケアに繋げる事ができました。

○チームビルディングを意識し職務に取り組み、職員間で声掛けして連携を図りながらお互いに助け合って人の仕事も自分の仕事として協力できました。

令和2年度木次居宅介護支援事業所事業報告

1. 総括

今年度は、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症により、私たちの暮らしや生活スタイルが一変し、今もなお感染拡大の終息が見えない状況にあります。また、市内でも発生があり、サービス利用やケアマネジメント業務にも大きな影響を与えることとなり、これまで当たり前にしてきたことにも制限がかかりました。その中でも、町内唯一の複数のケアマネジャーを有する事業所として、目標達成と介護難民を防ぐべく、積極的に新規ケースを受け入れ、実績につなげました。感染症拡大防止のため地域に向いての活動はできませんでしたが、地域包括ケアシステムの一翼を担うものとして、今後も地域の小さな声を拾い、繋げていく事が必要と考えます。

2. 事業運営状況

・R2年度事業目標、月平均 105 件を達成し介護支援専門員一人あたりの基準担当件数 35 件確保し健全な経営に努めました。

・雲南市地域包括支援センターから委託を受け、各介護予防事業所と連携し業務を実施しました。実績は、以下の通りです。

介護予防業務 72 名・介護予防マネジメント業務 9 名（延べ人数）

3. 給付動向

令和2年度給付管理数

項目	新規受入数	総合計	月平均	一人当たり件数
件数	46	1,269	105	35

加算取得件数

項目	入院連携 I	入院連携 II	退院退 所加算 I 1	退院退 所加算 II 1	退院退 所加算 I 2	退院退 所加算 II 2	退院退 所加算 III	初回加 算	小規模 連携加 算
件数	41	7	21	12	6	4	3	36	1

4. 個別項目

①ケアマネジメントの充実

行政機関、雲南市地域包括支援センター、医療等、多職種との連携により自立支援に向けて包括的なケアマネジメントを実施しました。各加算の算定を確実にを行うために根拠書類を揃えています。

②介護支援専門員の資質・向上を図る

概ね週1回、事業所内会議を開催しケアマネジメントに関する知識を深め、事例検討や制度・情報の共有を行いました。前年度から続く感染症流行により施設外研修への参加は少ないで

すが、自立支援ケア会議、認知症ケアフォーラム研修、事業所内での WEB 研修等、感染状況に応じ対策を行いながら参加しました。

③地域貢献

全国的なコロナウイルス感染症流行により地域や自治会行事が中止となっている為、年度内の認知症キャラバンメイトの活動はありませんでした。地域に開かれた事業所として、なんでも相談できる窓口であるよう体制を整えています。

令和2年度小規模多機能型居宅介護事業所桜花 事業報告

「総括」

- ・全体の総括として運営推進会議で外部評価を実施し、地域密着型施設としての存在意義や地域に根ざした施設づくりを事業計画に反映させ活動しました。
- ・もっと地域の方との交流を持って小規模多機能の持つ地域に根付いた活動や地域交流を行うこと目指し努力しましたが、新型コロナウイルス感染対策・蔓延防止にて地域交流はできませんでした。
- ・「訪問」には力を入れ、買物や掃除、食環境を見直し生活環境の改善に取り組みました。

「ご利用者様及びご家族の意向をくみとる取り組みを行いました」

- ・毎月、桜花会議やケース会議において、新規ケースや対応困難事案の解決に向けて検討を行いました。
- ・訪問回数を増やし、健康管理や家庭内の状況把握、声掛けを行うことにより安心感をもつていただき、話し合いの場を設けて意識統一を図りました。
- ・事例検討会を通じて問題点を把握し、サービスにつなげました。
- ・訪問時に得た情報は家族の要望を含めミーティングや業務日誌で報告をして周知しました。
- ・登録20名は達成できませんでしたが、常に登録20名以上を目標に調整しました。

【介護度別×ケア種別】

	要支援1		要支援2		要介護1		要介護2	
	実	延	実	延	実	延	実	延
通い	2	132	1	202	7	588	4	640
泊り	0	0	1	1	3	72	2	283
訪問	2	13	0	0	6	644	3	500
	要介護3		要介護4		要介護5		合計	
	実	延	実	延	実	延	実	延
通い	6	828	1	24	5	1,194	26	3,608
泊り	5	365	1	1	5	1,203	17	1,925
訪問	1	128	0	0	0	0	12	1,285

「対応とスキルアップ」

- ・資格取得を積極的に促し、スキルアップを図りました。介護福祉実践者研修に参加しました。
- ・法人年間研修計画及び桜花研修計画に基づき感染症研修や接遇研修に参加しました。
- ・「事故報告書」及び「ヒヤリハット」報告書をもとに改善策を検討し、法人のリスク委員会に報告して再発防止に努めました。
- ・「お客様ノート」の内容を桜花会議で話し合い、改善に向けた取り組みを行いました。

「地域へのアプローチ 地域とともに取り組むこと」

- ・年間行事計画の立案にあたって行事の担当を決め、担当者が中心となって行事を実施しました。実施した後の報告を欠かさず行い、次年度の活動へのヒントとして記録しました。
- ・コロナ禍で思うように地域交流ができませんでしたが、桜花内での季節行事や活動などをブログや桜花新聞に掲載し、情報発信しました。
- ・<http://www.sakurasaku-home.org/> ⇒ 「桜花ブログにて発信」

「令和2年度の活動」

月	行 事
4月2日	市内ドライブ、散歩
4月3日	花見
4月16日	季節お菓子作り（三色団子）
5月23日	買い物ツアー
6月15日	笹巻づくり（さくらんぼの家との交流会）
7月7日	七夕行事
7月17日	花火大会
8月14日	盆団子づくり
8月20日	納涼祭
9月7日	葡萄狩り（天候不良とコロナ感染予防による代替行事）
9月12日	お菓子作り（ミニおはぎ）
9月23日	さくらんぼの家との交流会
10月26日	運動会
11月9日	長寿の祝い
11月14日	お菓子レク（一口カステラ）
12月17日	餅つき会
12月25日	クリスマス会
1月3日	新春祈願祭
1月25日	新年会
2月2日	節分
3月3日	ひな祭り
3月31日	季節お菓子作り